

2014 年 10 月 30 日

工学系学生国際交流基金報告書

派遣者氏名：成田海	
所属専攻・研究室・学年：材料工学専攻 小林研究室 修士課程1年	
派遣先大学・専攻： University of California, Riverside Department of Bioengineering	
受入教員名： Huinan Liu	
派遣期間：平成 26 年 7 月 7 日 ～ 平成 26 年 9 月 30 日	
申請カテゴリー： ☐ (C1)SERP ☐ (C2)AOTULE ☐ (C3-a)部局間協定校 ☐ (C3-b)全学協定校 ☒ (C4)その他	
研究（プロジェクト）題目： Corrosion Properties and Cytocompatibility of Mg/ β -TCP composites	

- ・ 帰国後1か月以内に工学系国際連携室 田崎裕美宛（tasaki.h.aa@m.titech.ac.jp）にMS Wordファイルにて提出ください。
- ・ SERPで派遣された場合は、受入教員の評価書も添付して下さい。
- ・ この表紙を含まず、ページ数は2～4ページ、ファイルサイズは3MB以内としてください。
- ・ 研究室や宿舍内の様子の写真、図表、イラスト、滞在中のその他の写真などは挿入可です。ただし、それらを掲載する際には簡単な説明を加えて下さい。
- ・ 提出された報告書の2ページ目以降を工学系のホームページに掲載いたします。また、別途、クロニクルへの執筆をお願いすることがあります。

報告書必須記載事項

- ・ 派遣大学の概要（所在地、創立、大学の規模など）
- ・ 所属研究室での研究概要とその経過や成果、課題など
- ・ 所属研究室内外の活動・体験（日常生活・余暇に行った事など）
- ・ 留学先での住居（寮、ホームステイ等）、申し込み方法、ルームメイトなど
- ・ 今回の留学から得られたもの、後輩へのメッセージ、感想、意見、要望

東京工業大学大学院理工学研究科 工学系学生国際交流基金報告書

派遣年 : 平成26年
氏名 : 成田海
所属専攻 : 材料工学専攻
派遣先 : University of California, Riverside

(次ページ以降に記入してください。)

- ・ 派遣大学の概要（所在地、創立、大学の規模など）

カリフォルニア大学リバーサイド校は、カリフォルニア州南部、ロサンゼルス郊外都市リバーサイドに位置する総合大学です。1907年にカリフォルニア大学のかんきつ類研究所として設立されたのち、1954年に正式に(UC Berkeley, UC Losangelesに代表される)カリフォルニアシステムの一大学として認められました。学生は、学部生約15000人、大学院生約2200人であり、キャンパスは1200エーカーの広さをもつそうです。

- ・ 所属研究室での研究概要とその経過や成果、課題など

UCR(University of California, Riverside)のBioengineering学科に所属しました。研究室では、体内で溶ける骨固定材の材料としてマグネシウム・リン酸カルシウム複合材料の研究を行いました。主に行った実験は、マグネシウム・リン酸カルシウム複合材料を使用した、生体内模擬のための腐食試験、細胞毒性試験です。東工大では、材料開発や強度の評価を行っており、UCRとは全く異なる実験であったため、一から学ばなければならず大変でしたが、自分の研究の幅を広げることができたと思います。

- ・ 所属研究室内外の活動・体験（日常生活・余暇に行った事など）

カリフォルニアは観光する場所が多くあり、週末にはディズニーランド、ユニバーサルスタジオ、ハリウッド、ビーチなどいろいろな場所に遊びに行きました。また、毎週金曜日にはパーティーがいつもどこかで開かれており、そこでいろいろな国の友人を作ることができました。

- ・ 留学先での住居（寮、ホームステイ等）、申し込み方法、ルームメイトなど

住居は訪問研究室の先生に紹介してもらった寮でした。その住民の多くが、UCR Extension Centerという英語学校の生徒であり、中国、韓国、ブラジル、日本、フランスなど多くの外国人が生活していました。ルームメイト(ベッドルームを共有)一人、ハウスメイト(リビングを共有)一人の3人で暮らしており、ルームメイトは私の滞在中に3回変わり、インド人、フランス人、フランス人(2回目)であり、ハウスメイトはサウジアラビア人でした。他の国の人と初めてルームシェアをしましたが、特にトラブルになることなく一緒に夕飯を食べに行ったり、観光に行ったりととても楽しく過ごせたと思います。

- ・ 今回の留学から得られたもの、後輩へのメッセージ、感想、意見、要望

自分の研究を進めるのみでなく、研究室内での会議や他の学生との研究内容のディスカッションも自分の研究の幅を広げ、深めるのに大変役立ちました。違う研究室で研究を行うということ自体、言語関係なくとてもいい経験になります。

英語に関しては、ネイティブの英語は“what’s up?”すらも何を言っているかわからない状態でしたが、2か月を過ぎたあたりから100%理解できるとは言わないまでも、不自由なくディスカッションをできるようになりました。英語について心配している学生は多いと思いますが、あまり自分から話さない私でも2か月で英語力は向上したので、普通の人なら1ヶ月で耳がネイティブの英語についていけるようになると思います。もし英語力でためらっているのなら、実際行ってみるべきです。日本人は、文法は完璧なので英語の表現になれると格段に英語力が向上すると思います。